

令和6年度 府中市立日新小学校 学校経営計画

校長 渡邊 妙子

はじめに

今年度本市は市制70周年を迎え、節目の年です。すべての教育活動において、「きづく つながる たかめる」をキーワードとして特別活動の特質や役割を意識し、以下の視点を重視した今日いう活動を展開します。

- ◆発見すること（意欲・好奇心・課題発見力等） ◆対話すること（コミュニケーション力・多様性等）
- ◆決定すること（自己調整力・批判的思考力等） ◆表現すること（実行力・表現力・責任感等）

持続可能な社会の一員となる児童をはぐくむために、カリキュラム・マネジメントの充実に基づき、学習指導要領の着実な実施と教育活動の充実に向けて、学校全体で尽力します。

教職員は日々の授業・実践力が命ですので、不断の授業・業務改善に取り組みます。教職員集団全体で高め合い、学び合うOJTの推進、「研究・研修による自分磨き」を通して、「教師力」「学校のチーム力」を一層向上させます。また、「読み・書き・計算・振り返り」等の基礎的・基本的な学習内容の定着に向け、「思考・判断・表現力⇒学びに向かう力」を培う話し合い活動を重視した学習展開や特別支援教育を基盤とした個に応じた指導・支援に協働するとともに、学習指導要領に即した教員の指導・評価の一体化や働き方の改革を推進します。

「府中版コミュニティ・スクール」として、地域の教育財を生かした「地域とともにある学校」づくりに取り組み、「日新を誇る 府中っ子」を目指した「きづく つながる ふりかえる」を重視した教育活動を展開します。

創立46周年を迎えた本校の歴史と伝統を大切に、本年度の学校経営計画を以下のように策定します。

1 目指す学校像と中期的目標及び方策

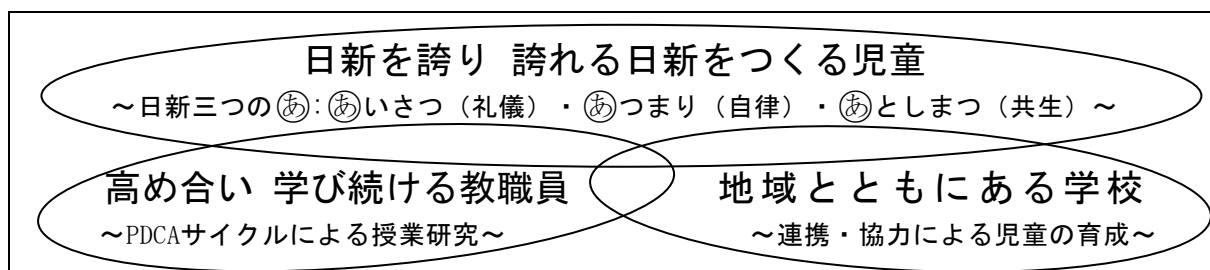
学校とは、「確かな学力」や「豊かな心」、「たくましい心身」及びそれらの育成を目指す資質・能力を育む安全・安心な場所でなければなりません。また、第3次府中市学校教育プランには、「ふるさと府中に誇りをもち、世界に活躍する府中っ子を育てる」という基本理念が述べられています。

そこで本校の歴史と伝統や府中市の施策を踏まえ、教育目標を次のように定めます。

子供・家庭・地域社会の願いを受け止め、ふるさと府中を愛し、世界にはばたく府中っ子として、日々新たに伸びようとする、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供を育成する。

◎かしく（問題解決力） ○やさしく（人間関係形成力） ○たくましく（自己理解・実践力）

この学校教育目標を達成するために、以下の三つの柱を立て、目指す学校像を示します。人と人との思いやりや社会性を育む《日新三つの①》。教師自らが、資質向上を目指し、子供たちに範を示すための《高め合い 学び続ける教職員》。創立以来続いている保護者や地域との連携・協力を教育活動に活かす《地域とともにある学校》。特色や校風をより一層充実、発展させ、次のような児童や教職員の居る学校、保護者や地域・学校との関係を作っていきます。



(1) 「日新を誇り 誇れる日新をつくる児童」を育む学校

①豊かな心と基本的な生活習慣の確立

教育目標につながる具体的な方策が「人と人との思いやり一日新三つの① ①いさつ (礼儀)・②つまり (自律)・③としまつ (共生) -」で、教職員が学習モデルとなって取り組みます。相手を認めるという「あいさつ (礼儀)」は、社会生活の基本及びいじめ未然防止策でもあり、今年度も重点的に取り組みます。また、定刻に集まるという「あつまり (自律)」は、人を待たせずに大切にするという配慮と、

自己を律するという事です。「あとしまつ（共生）」は、もと在った通りに、更には、ともに生きる次世代のために環境等にまで思いを広げさせたいとの願いを込めています。

①あ いさつ（礼儀）	「あいさつで始まり、あいさつで終わる」授業 「はい・たつ・です」の規律 「～さん」付けの呼称
①あ つまり（自律）	定時の登校 「チャイムで始まり、終わる」授業 「めあてによる児童の振り返り」のある授業
①あ としまつ（共生）	「きれいな教室・きれいな黒板・きれいな机」 「考えを聞き合い、話し合う」互いに高め合う授業

②基礎的・基本的な学習内容、言語に関する力の定着

話し合い活動を重視した授業設計のもと、「思考・判断・表現力⇒学びに向かう力」に関係付けた「知識・技能」の向上、習熟度別指導や個に応じた多様な指導方法（e ライブラリ等の活用や家庭学習（10分×学年）をつなげた繰り返しの学習で、下学年及び当該学年の基礎的・基本的な学習内容、言語に関する力の定着や活用力、児童の自己評価・調整力の向上を目指します。「世界とつながる英語 Enjoy Week」を活用し、1・2年「英語遊び」、3・4年「外国語活動」、5・6年「外国語」における系統的なコミュニケーション能力の素地作りに取り組みます。

③豊かな知性と感性を伸ばす読書活動

朝の読書、前・後期の読書旬間、図書学校支援員や図書ボランティアによる読み聞かせ、読書時間の目標（全学年毎日10分以上）や読書量の目標（年間1・2年生100冊、3年生以上は学年×1000ページ）の設定等により読書マスター（読書目標達成した児童）を増やします。また、学習への情報収集としての図書館活用等を通して、興味・関心を高めるとともに、豊かな知性と感性を育みます。

④たてわり班（わくわくタイム）活動の充実

年間の異学年交流活動を通して、児童の主体性や社会性、高学年のリーダー性や思いやり、責任感を育みます。同時に、下学年児童にはリーダー学年になることへの見通しとあこがれをもたせます。

⑤「未来へつなぐ府中2020レガシー」の推進

テーマ「まちづくり」「歴史・文化」「自然・環境」「ボランティアマインド」「障害者理解」「豊かな国際感覚」について取り組み、府中市のよさや課題等を見出し、本市の未来について考えさせます。

(2) 高め合い、学び続ける教職員のいる学校

①これからの授業では、言語活動及びICT機器の効果的な活用を一層充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れます。意図的計画的に話し合い活動を組み込みながら、考えを深めたり、考える楽しさを味わったり、自己を振り返って調整したりする学習体験を更に増やします。

②校内研究会では、算数科を通して検討・協議を深めて授業改善を図るとともに、児童の「思考・判断・表現力⇒学びに向かう力」を培いながら「知識・技能」の習得を狙います。また、校内研究会での学びを日々の他教科等指導の在り方にも織り込み、自身を児童の学習モデルとして組織的に研究・研修を進めます。

③府中市教育研究会への積極的に参加し、教師自身が東京都から求められている教育公務員としての素養及び各職層の職務内容を実践するとともに、自己申告等を活用したPDCAサイクルにより、自らの課題解決をしながら、自己評価能力及び自己教育力を伸長させていきます。

(3) 地域とともにある学校

①心身ともに健康な児童の育成をするために、特別支援教育に基づいた組織的な取組を充実させるとともに、本校の伝統と地域の教材を活かして連携・協力します。また、基本的な生活習慣の確立、情報モラルや防災教育等を通して、安心・安全を推進します。

②小学校6年間だけではなく、就学前及び義務教育期間の9年間で、関係する幼保園、小・中学校等との連携を図りながらESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の育成を図ります。

③府中版コミュニティ・スクールとして根幹をなす探究的学習「日新エージェンシー」で生活科と総合的な学習「日新アクティブ」を接続し、「未来につなぐ府中2020レガシー」「世界とつながる英語 Enjoy Week」「近隣保育園児との交流活動」「日新小の実なる木」「餅つき・丸餅作り」「ふるさと府中と菊づくり」等を実践します。小中連携教育での「学びと育ち」、青少年対主催の地域行事や文化センター祭り、夏休み中のPTA行事「ラジオ体操・美化活動」など、地域の方々や関係諸機関・諸団体に支えられた見学や観察等の体験的学習等、地域の伝統や教育資源及びを活かしながら、創意工夫し、発展的改善を目指します。

(4) 学校経営の基盤となる事業

学校経営支援予算を活用し、特別支援教育を全教育活動のベースとして、次の取組を拡充する。

- i) 「読み・書き・計算・振り返り」への個別的指導
- ii) 読書活動・図書館利用への指導及び諸取組
- iii) 多様な要配慮児童への段階的な指導・支援及び適正な就学・我が子理解への組織的な保護者啓発
- iv) 不登校傾向児童・保護者への支援（サポートルーム、家庭と子供の支援員の活用、保護者面談等）

2 今年度の取組目標と方策（◎は、重点目標とその方策）

* 目標と方策は、1対1対応ではなく、関連性複数対応として明示。

項目	取組目標	方 策
(1) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○職層に応じた求められる姿の具現化を図るとともに、学校組織を活用し、的確かつ効果的・効率的な教育活動の展開や各課題への対応を行う。 ○コミュニティ・スクールとして、学校関係者・地域の教材等を活用し、本校ならではの教育活動を効果的に展開する。 ◎体罰等不適切な指導の根絶、食物アレルギーへの対応個人情報保護など、サービス事故ゼロを実現する。 ◎組織体制を活かして、重層的な人材育成を図る。 ◎特別支援教室拠点校としての特別支援教育の具体的手だてを展開して推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 担当する教育活動の効果的・効率的な推進に向け、校務分掌組織の主任を中心に、分掌組織等で検討を行い、実施案について具体的に計画・起案する。事後に次年度の改善計画の作成・起案を行い、適切に進行管理(カリキュラム・マネジメント)を行う。 ② 地域の伝統及び教材を活かした本校ならではの教育活動について、スクール・コミュニティ協議会や地域コーディネーター、保護者・地域のゲストティーチャー等と計画的に連携して実施し、充実を図る。 ③ 人権やいじめ防止研修、サービス事故防止研修、児童理解研修、学校保健委員会等での研修について、計画的・効果的に実施する。 ④ 校内 OJT を計画的に実施する。特に、学年及び校務分掌組織の主幹・主任教諭は、若手教員に対し、学習指導力及びその他の資質・能力を計画的に引き出し、確実な人材育成を行う。 ⑤ 特別支援コーディネーターを中心に、児童理解及び特性に応じた個別指導について、校内委員会を効果的に運営する。 ⑥ 関係諸機関との組織的な連携のもと、多様な要配慮児童や不登校傾向児童への工夫した指導・支援及び適正な就学を多角的・計画的に実施し、保護者の我が子理解を啓発する。 ⑦ 支援レベル1～3の教育活動について、巡回指導教員、特支コーディネーター、SC 等との協働体制で、児童理解に基づいた支援を具体化して段階的に実践する。
(2) 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ◎「読み・書き・計算・振り返り」、「思考力・判断力・表現力⇒学びに向かう力・人間性等」に関係付けた知識・技能、について、学年等の体制で確実に習得できるようにする。 ◎生活科と「日新アクティブ」の接続を重視した「日新エージェンシー」で、児童の探究的な学習活動を展開し、問題解決力を育成する。 ◎「主体的で対話的な道徳科」の授業づくりを図る。 ○自らの健康に関心をもち、すすんで運動に親しむ児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「思考・判断・表現力⇒学びに向かう力」の育成を目指した話し合い活動により、主体的・対話的で深い学びにつなげる。ICT 機器等を効果的に活用するなどして問題解決的、探究的な学習を位置付ける。 ② めあて提示とそれによる振り返り(児童による自己評価、自己理解)を行わせ、学びに向かう力(自己評価能力や自己調整力)を培う。 ③ 「議論する道徳科」に関する自己研鑽・OJT に努めるとともに、保護者と連携して道徳的実践力を身に付けさせる。 ④ 「英語 Enjoy Week」、プログラミング、SDG's、「いのちの教育」など今日的な課題である教科等指導を確実に実施する。 ⑤ 授業では「導入」の効率化、主活動及び振り返り時間の確保を行う。 ⑥ 休み時間の外遊びの奨励、教員の積極的な参加に努める。保健指導・学習と日常の健康安全との関連を図り、指導する。また、全学年、発達段階に応じた「SOS の出し方に関する授業」を行う。 ⑦ 特殊音節の読み書き、四則計算の筆算等、下学年の基本的な学習内容の定着に向けた個に応じた指導及び家庭学習について、家庭との連携のもと、計画的に実践する(学校生活支援シート・個別指導計画)

	<p>◎認知特性のある要配慮児童、下学年の学習内容未定着児童への個に応じた指導及び家庭学習を計画的に実施する。</p>	<p>による保護者との合意形成と協働実践の具現化)。 ⑧個別の課題に則した自立活動を構成し、課題解決のための個別・小集団活動を工夫しながら、保護者・学級担任と協働する。</p>
(3) 生活指導・進路指導	<p>◎学校生活の中で、すすんで「日新の三つの(あ)」に取り組む児童を学年等の体制で育む。 ◎全教育活動を通して、人権意識を醸成する。 ◎当年度日新小さいじめ防止基本方針に基づき、いじめのない学級・学年・学校をつくる。 ◎不登校等への柔軟な組織的対応、保護者・地域に開かれた安定した学級・専科、学年経営を展開する。 ○キャリア教育を、上学年下学年間で具現化する。</p>	<p>① 学年等で、「日新の三つの(あ)」に関する取組(挨拶の取組:学級→学年→全校への発信)を具体的に工夫・計画し、実践する。 ② 「挨拶で始まり挨拶で終わる授業」、「はい・立つ・です」の発表等、学年等で挨拶に重点を置いた指導、人権週間、言語環境(児童・教職員・掲示物等)の整備等の取組を学年等で実践する。 ③ 各学年等で、「自分も友達も大切に」取組、いじめ防止に向けた学期1回の指導や取組を具体的に工夫・計画し、実践する。 ④ 学級・専科経営について「つかむ1学期」「深める2学期」「広げる3学期」を展開し、学年2(3)担任体制で人間関係形成力を育む。 ⑤ 不登校傾向児童について、学校生活支援シートと個別指導計画を作成し、サポートルームや学校と家庭支援員等を活用するなど、組織的な取組を行う。サポートルーム利用個票に記録し、引き継ぐ。 ⑥ 下学年に学習経験・成果を伝え、上学年をモデルとしてあこがれるようなキャリア教育の学年等の取組を、3学期などに実践する。</p>
(4) 特別活動	<p>◎異年齢活動を推進し、児童相互の思いやりの心や協働の気持ちを育む。 ○児童の居場所を作り、生き生きとした学校生活を送れるようにする。</p>	<p>① 学年に応じたUD学級会活動を、系統的に指導する。 ② たてわり班活動、クラブ活動や委員会活動の工夫・充実を図る。 ③ 望ましい人間関係の育成に向け、集団の一員として学校生活づくりへの参画意欲と実践力を育てる学級活動・学年集会等を展開する。 ④ 各種の学校行事や集会等の意義を踏まえ、そのねらいの実現に向け、事前・事後指導との関連を図りながら、指導を工夫・実施する。</p>
その他	<p>○保幼小での連携した取組を充実させる。 ◎「府中っ子」「日新を誇る児童」の育成を推進する。 ◎家庭・地域との連携を工夫し、推進する。</p>	<p>① 近隣の保育・幼稚園との交流等及び就学に向けた情報入手・準備等を、当該分掌・学年等において一層工夫する。 ② 地域教育材を生かした本校ならではの教育活動を全校体制で推進し、下学年に伝える活動等の設定により、各児童に価値付ける。 ③ 保護者・地域啓発に向け、日新小だより・学年だよりの継続的な発行を図る。PTA・地域行事等への計画的な参加を図る。</p>
(5) 能力開発・その他	<p>◎校内研究を基盤として、以下の4つの資質・能力について、改善及び向上を主体的に図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>i) 学習指導力 ii) 生活・進路指導力 iii) 外部との連携・折衝力 iv) 学校運営・組織貢献力</p> </div> <p>● 服務事故ゼロを実現する。 ● 自らの働き方の改革に臨む。</p>	<p>① 自己申告を活用し、教職員の自己評価能力を主体的にはぐくむ。 ② 東京都から期待される各職層の職務内容を自覚して職務を行う。 ③ 担当職務や日常業務について、校内OJT、取組目標の設定などを通して、左の4項目に関する自己の資質・能力の向上を図る。 ④ 校内研究での研究奨励事業、府教研(悉皆研修)、各種研修・研究会等へ積極的に参加し、自己研鑽を図る。 ⑤ 職務内容における過去のデータ活用、職務行動の効率化を図る。 ⑥ 学年・校務分掌組織で効果的に分担・連携・協力し、PDCAサイクルに基づいて校務改善を図る。 ⑦ 服務事故ゼロに向け、教育公務員の自覚をもち各教職員が重要事項について主体的に判断・実践を通して、保護者等の信頼を得る。 ⑧ 自らの働き方について具体的に目標設定をし、工夫して取り組む。</p>

＜学校経営計画の構想＞

＜ 持続可能な社会の一員として、育てたい子供像 ＞

「ふるさと府中に誇りをもち、世界に活躍する府中っ子」

令和6年度 教育課程キーワード
きづく つながる たかめる

＜ 教育目標 ＞

子供・家庭・地域社会の願いを受け止め、ふるさと府中を愛し、世界にはばたく府中っ子として日々新たに伸びようとする、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供を育成する。

◎かしこく(問題解決力) ○やさしく(人間関係形成力) ○たくましく(自己理解・実践力)

＜ 目指す学校像 ＞

日新を誇り 誇れる日新をつくる児童

～ 日新三つの^あ：^あいさつ(礼儀)・^あつまり(自律)・^あとしまつ(共生)～

高め合い 学び続ける教職員

～ PDCAサイクルによる授業研究～

地域とともにある学校

～ 連携・協力による児童の育成～

＜ 日新を誇り 誇れる日新をつくる児童 ＞

- ① 「日新三つの^あ」
 - ◎ 「あいさつ(礼儀) あつまり(自律) あとしまつ(共生)」基盤とした学校生活
- ② 基礎・基本的学習内容及び振り返り力の定着
 - チャレンジタイム、個別指導計画、タブレット端末等の活用による個別的指導、家庭学習の工夫
 - ◎ 問題解決型学習、話し合い活動、ワークートの活用
 - ◎ 「世界とつながる英語Enjoy Week」の充実
 - ◎ 「10分×学年」の家庭学習習慣の確立
- ③ 豊かな知性と感性を伸ばす読書活動
 - ◎ 読書マスター及び学校図書館利用による読書への興味・関心、知性・感性の向上
 - 1・2年生100冊以上、3～6年:学年×1000ページ以上
 - ◎ 他教科等との関連付けや読書活動の工夫
- ④ たてわり班活動の充実
 - リーダーを中心に、主体的に楽しむ活動
- ⑤ 「日新エージェンシー」の推進
 - ◎ 探究的学習：生活科&日新アクティブの接続
 - ◎ 「府中っ子」「日新を誇る児童」の育成
 - 地域教育材を活かした伝統ある教育活動：5年「餅つき・丸餅作り」、6年「菊作り」

＜ 高め合い 学び続ける教職員 ＞

- ① 算数科(問題解決力育成)を中心とした校内研究会
 - ◎ 府中市教育委員会研究奨励校(2年目)発表会 R7.2.7
- ② 不断の授業改善
- ③ 話し合い活動による「主体的・対話的で深い学び」問題解決的、探究的な学習及びICT機器の効果的活用
 - ◎ 職層に応じた教師同士による、高め合い・学び合い
 - ◎ 自己申告及びPDCAサイクルに基づく授業力向上
- ④ チーム力を活かした校務分掌や組織運営
 - ◎ 連携・協働・創意工夫で教職員のチーム力を発揮
- ⑤ OJTによる人材育成 ◎ 服務事故ゼロの実現
- ⑥ 児童の実態に学ぶ生活指導全体会・児童理解研修会・毎週の生活指導夕会に基づいた共通実践
 - ◎ いじめ、不登校に対する柔軟な組織的対応
 - ◎ 「つかむ1学期」「深める2学期」「広げる3学期」
- ⑤ 特別支援教室「ひばり」拠点校：特別支援教育の推進
 - ◎ 認知特性等を考慮した分かりやすい授業や学習環境
 - ◎ 「学年2(3)学級」の学年・学級経営
 - ◎ 学校生活支援シート・(連携型)個別指導計画の活用及び特別支援教室「ひばり」教員との協働
 - ◎ 特別支援コーディネーター4名を柱とした組織的な校内委員会による教育相談体制の推進と保護者への啓発と連携

＜ 地域と共にある学校【府中版コミュニティ・スクール】 ＞

- ① 保護者・地域と協働する、規範意識や「自分を大切に 友達を大切に」する心の育成
 - ◎ 道徳授業地区公開講座(学校懇談会)
 - 関係諸機関や諸団体との連携強化
- ② 開かれた学校・地域に根ざした教育の推進
 - ◎ 開かれた学校としての授業と行事の公開
 - ◎ スクール・コミュニティ協議会、学校保健委員会
 - 保護者・地域と連携した特色ある行事・活動
 - 日新小だよりやホームページ・ブログの充実
 - 幼保小連携や小中連携教育の八中学校区スタンダードによる「学び」と「育ち」の連携
- ③ 児童の安心・安全の確保
 - 青少対との情報交換
 - サポートルーム・学校と家庭の支援員の活用

＜ 伝えき継ぎたい伝統・校風 ＞ 生活科・「日新アクティブ(総合的な学習)」等

「日新ランド」「まちたんけん」「保育園児との交流学習」「地域見学」「どんど焼き見学」「お囃子体験」「日新小の実なる木」「障害者理解・福祉学習」「箏演奏体験」「5年水田プロジェクト、餅つき・丸餅作り」「6年ふるさと府中と菊作り」「5年わくわく自然教室」「6年日光移動教室」「ボランティア集会」PTA・保護者ボランティアによる「水田委員ボランティア、夏休み肝試し大会、夏休みラジオ体操・美化活動」

